

東日本大震災の口腔ケアボランティア活動に参加して

4月28日～5月3日まで（移動含む）福島県いわき市に行ってきました。
日本歯科衛生士会・和歌山県歯科衛生士会からの依頼がきて1週間後の出発。
口腔ケアということで歯ブラシ、スポンジブラシ等を慌てて用意し、最初は寝るところは？
寝袋？などと情報が少ない中での参加でした。

いわき市に着いて宿泊先のホテル周辺はライフラインも全て復旧されていました。
活動は、避難場所を巡回し、口腔ケアということでしたが実際には義歯等の調整、簡単なTBI、あとは話を聞かせていただくということが多かったです。

福島県は原発の影響もあり、家があるのに帰れないという状況の中で避難所生活を送っておられるかたも多く、「歯どころじゃない」と言われることもありました。
また、地震でご家族の方や友人を亡くされたかたも少なくなく、その方々の話を聞かせていただくだけで、どのように声をかけたらいいのかわからず、ただ聞いているということもありました。

私が出会った90歳以上のご夫婦。「津波が来る前に二人で非難し助かったけど何も持たずにきたから何にも残ってない。家も流されここにいつまで置いてくれるのか。」と床に膝をついて話を聞いていた私に「何もお構いできませんが上がってください」と毛布の上にあがりなさいと言ってくださいました。その後しばらくご夫婦と話しました。



このお二人の気遣いに私は涙を浮かべてしまいました。

被災地を視察させていただきましたが、実際にみると絶句、言葉を失ってしまいました。



被災者の方々と話しをして感じたことは、避難所生活が50日以上となり心的ストレスからの疾患が心配されます。また、栄養の偏りや食中毒も心配です。

今回ボランティア活動に参加させていただき私自身とても貴重な体験をさせていただきました。1日も早く復興できることを願いますとともに今後も何かお役にたてればと思います。避難所で出会ったボランティアの方、被災者のかた大変な中でも避難所を回っている私達のことを気遣っていただき温かい言葉をかけていただき本当にありがとうございました。

玉置晃子